

「食品に関するリスクコミュニケーション（岡山）」
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 アンケートの集計結果

開催日：2004年9月28日（火）

参加者数：55名 回答数：30名（回答率54.5%）

問1 ご自身について、ご回答ください。

1) 消費者	8	27.0%
2) 農林水産業	3	10.0%
3) 食品関連事業者	2	6.7%
4) 食品関連団体	1	3.3%
5) 研究機関	1	3.3%
6) 行政関係	13	43%
7) マスコミ関係	0	0%
8) その他	2	6.7%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体職員（全農）（1） ・ 農林関係団体（1） 		

問2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。（複数回答有）

1) 食品安全委員会のホームページ	8	26.7%
2) 食品安全委員会からのご案内資料	6	20.0%
3) 関係団体からのご案内資料	7	23.3%
4) 知人からの紹介	3	10.0%
5) その他	8	26.7%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 農水省 HP（1） ・ 消費者技術センターのメルマガ（2） ・ 新聞（2） ・ 農水省メールマガジン（1） ・ 農林水産省中国四国農政局からの情報（1） ・ 岡山県庁関係部（1） 		

問3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。

1) 評価する	9	30.0%
2) やや評価する	20	66.7%
3) あまり評価しない	0	0%
4) 評価しない	0	0%
5) 無回答	1	3.3%

評価理由・

- ・ 科学的視点からのありのままの報告は評価できる。結果の一部を結論とした政策にならないように願う消費者の意見を取り入れ、十分な政策にしていくことを望む。
- ・ まず、食品安全委員会の金子委員の誠実な態度に信頼を持ちました。リスクはリスクとして、明確に国民に情報公開している食品安全委員会に期待しています。
- ・ 講演はとてもわかりやすかった。
- ・ 消費者や生産者の意見を伝える会があるのは良いが、急なことだったので参加できない人もい

た。

- ・普通は安全委の活動、主に検討趣旨や内容はマスコミを通して知る。直接お聞きして安心度は増した。マスコミ関係に正確に知らせる努力もお願いしたい。
- ・率直な意見を聞いてもらえる。
- ・地方で上流と下流の意見交換ができた点。
- ・直接意見を言える場ができてよい。
- ・とりくみは評価できるが、具体的進行については改善の余地あり。くつの上から足の裏をかくような歯がゆさがある。
- ・県行政の推進を検討するにあたり参考になった。しかし、会の中であったように、周知が十分でなかったため参集範囲がせまかったのではないかと思う。
- ・食品安全委員会の存在を信頼し、期待したい。
- ・消費者の参加が少ないように感じた。
- ・この会について、もっと広くたくさんの人に集ってもらえるようにするためのPRが不足している。
- ・今わかっていること、現在のBSE対策評価の現状が良くわかった。今最大の関心事は、規制緩和と輸入規制解除である。この議論をもっとすべきでは。
- ・迅速なリスクコミュニケーションができています。
- ・全頭検査不要論はおかしい。学者は学者として判断すべき。政治利用されるな。BSE発生要因として、BSEに感染した肉骨粉の使用と方向付けしているが、牛脂が問題ではないのか - 代用乳。

問4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

- | | | | |
|-----|--------------------------------------|----|-------|
| 1) | 情報を公開していこうとする行政の姿勢がみられた。 | 21 | 70.0% |
| 2) | BSE対策について理解が深まった。 | 14 | 46.7% |
| 3) | 会場参加者と行政関係者との意見交換が出来ていて良かった | 9 | 30.0% |
| 4) | 意見交換というより一方通行の意見表明をする場になっていた。 | 0 | 0.0% |
| 5) | 行政関係者の話をもっと聞きたかった。 | 4 | 13.3% |
| 6) | もっとわかりやすく簡単に解説してほしい。(まだまだ難しく理解しにくい) | 6 | 20.0% |
| 7) | 講演時間を十分とって背景なども含めて説明してほしい。 | 3 | 10.0% |
| 8) | 講演時間をもっと短くして会場参加者との意見交換の時間を多くとってほしい。 | 1 | 3.3% |
| 9) | 偏った意見が目立っていたように思う。 | 2 | 6.7% |
| 10) | 講演資料が分かりやすかった。 | 5 | 16.7% |
| 11) | 意見交換だけではなく、もっと内容について議論する事が必要だ。 | 3 | 10.0% |
| 12) | その他 | 4 | 13.3% |
- ・ リスクコミュニケーションは国民の為というよりアメリカの為(早く輸入する為)が目的であると感ずます。
 - ・ 発言者は、先ず自分の意見ありきで、本日の説明の内容を理解しようとの姿勢は感じられなかった。
 - ・ 現場の重要な所をもっと直視していただきたい。

問5 今回、食品安全委員会プリオン専門調査会では昨年の発足以来、日本のBSE対策について初めて科学的に検証し、その結果を「日本における牛海綿状脳症（BSE）対策について - 中間とりまとめ - 」としてとりまとめ、今後さらに検討を行なっていくこととなりますが、この中間とりまとめを行なったことについてどのようにお考えですか？

1) 評価する	15	55.6%
2) やや評価する	12	44.4%
3) あまり評価しない	0	0%
4) 評価しない	0	0%

理由

- ・ 2001年、EU委員から日本に対して飼育方法餌についてのデータの請求があったが提出しなかった。その点から見れば、多少進歩したと思われるが、今後も人の健康を第一に安全対策を徹底していただきたい。
- ・ 客観的には理解するが、管理機関がどう受け止めるのか不安。あくまでも国民の健康保護を最優先で考えるべきである。
- ・ 中間的なまとめは必要だと思うし、それなりに評価します。イコール全頭検査を取りやめるということに結論づけてほしくないと思います。
- ・ 中間報告・まとめがあるのは希望があり、良いと思う。しかし、全頭検査は是非続けてほしい。
- ・ 手数がかかっても消費者等に多く知らせる努力は必要。研究者の方、評価委の方々のご苦労に感謝しています。
- ・ 報道等では結果ばかりがとりあげられ、過程がなかなか伝わってこないのので、消費者に違ったイメージを与えるおそれがある。
- ・ 広く一般に公開したため。
- ・ アメリカの輸入再開についての判断基準に使用しないでほしい（20ヶ月令だけ）。日本と同等の基準に基づいて再開してもらいたい。
- ・ 今後の展開についての詳しい説明もほしかった。
- ・ 背景の説明に、食品安全委員会を評価したい。
- ・ 科学的視点で取りまとめを行い、情報公開（リスクコミュニケーション）を行っているから。
- ・ 全頭検査、SRM除去、飼育規制、輸入規制などが、BSE拡大、およびvCJD感染防止に役立っていることがわかった。
- ・ 長い時間をかけると世論の興味を失うことになると考える。
- ・ 現時点での知見をもとに判りやすく整理されている。しかしながら、検査月令について玉虫色。20ヶ月以下は事例がないので検査は不要とは早尚の結論。我が国で20ヶ月未満の牛が食肉用としてと殺事例はごく少ない。発症事例はゼロはあたりまえ。だから全頭検査の不要論はおかしい。

問6 本日のような意見交換会にこれまでどれくらい参加したことがありますか。

1) 今回が初めて	22	75.9%
2) これまでに1回	6	20.7%
3) これまでに2回以上	1	3.5%

附問6 - 1 問6で3)を選択した方にお伺いします。意見交換会のあり方や勤め方は改善されてきていると思いますか。

- | | | |
|-----------------|---|-------|
| 1) 以前よりは改善されてきた | 4 | 57.1% |
| 2) 改善すべき点がある | 3 | 42.9% |

改善すべき点があるとしたらどのような点か具体的にお書き下さい。

- ・意見交換の進め方の見方がちがうのでは。 管理・規制の状況。 リスク評価。 今後規制緩和等BSE対策について。

問7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

- | | | |
|--|----|-------|
| 1) 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと(原則公開されていること) | 21 | 70.0% |
| 2) 食品安全委員会ホームページ(委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、意見募集、リスク評価等) | 12 | 40.0% |
| 3) 食の安全ダイヤル | 24 | 80.0% |
| 4) 食品安全モニター | 9 | 30.0% |
| 5) 食品の安全性に関する用語集 | 11 | 36.7% |
| 6) 食品の安全性に関する政府広報 | 11 | 36.7% |
| 7) その他 | 0 | 0% |

附問7 - 1 上記で選択したものについて、御意見やご感想がございましたらご記入ください。

- ・食の安全性の究極の目標は自給率の向上をめざすべきです。生産者が安心して生産に取り組むべく、ドイツ、フランス並みの生活保障の政策を進めていただきたい。
- ・もっと広範に積極的に広報してほしい。
- ・初めて参加しましたが、せっかくの機会、もっと多くの人に参加できるように広報してほしいです。
- ・まだまだ用語、表現がむずかしい。
- ・もう少し早く連絡を。
- ・今後の活動にとっても期待している。1つの中立的な委員会としてがんばっていただきたい。
- ・2)の議事録については、内容が詳しく、参加していなくても内容を理解することができる。
- ・用語集に関しては説明文章をもう少し検討してほしい(非常に読みづらい文章だと思います)。
- ・HP上で、委員会の内容等比較的早く、詳しく公開されていると思う。今後、更に開かれた委員会として行って欲しい。新しい機関としての事務局の努力、ご苦労様です。頑張ってください。
- ・行政から独立したものなので、PRしたりする手足がないのではないかと。TVでコマーシャルなどをしてはどうか。
- ・全頭検査、SRM除去、飼育規制を今後も継続し、牛肉に対して消費者が不安に思わない様にしてほしい。
- ・さすがの委員会。今後も頑張ってください。